

地域活性化に貢献するICT（情報通信技術）

6月1日、愛知県名古屋市中にて、「電波の日」（6月1日）および「情報通信月間」（5月15日～6月15日）にちなんで「電波の日・情報通信月間記念式典」が開催されました。同式典では、ICT（情報通信技術）を活用した取り組みが高く評価され、川根本町が「東海総合通信局長表彰」を受賞しました。

町全域に超高速ブロードバンド環境を整備し、住民に防災・行政情報サービスなどを提供するとともに、地域の情報発信を担う人材の育成やテレワークによる雇用の創出など、ICTを活用し、地域の活性化に多大な貢献をしたことが受賞の理由です。

受賞に至った取り組みをご紹介しますとともに、本年度の取り組みをお知らせします。



受賞に至った取り組み



ITキャンプ



住民ディレクター養成講座



デジタルサイネージ



ゾーホージャパン(株) サテライトオフィス

本年度の取り組み

テレワーク・サテライトオフィス誘致

- テレワークを進めるための技能講習会の開催
- 都内での説明会の開催、オフィス開設を検討している企業を中心とした体験ツアーの実施
- IT技術者グループの勉強会や大学ゼミの合宿の受け入れなど、町内での起業を目的とした活動の推進

IT人材の育成等

- ITキャンプなど、小中学生を対象としたプログラミング教室の開催
- 高校生以上を対象としたIT講習会、習熟度に応じたタブレット講義の開催
- 町が進めるICT教育の周知などを目的としたフォーラムの開催

ICTが創り出す魅力ある教育

- 特別教室、体育館、グラウンドを含む全エリアに無線LAN環境を構築
- セキュリティ対策を強化し、不正なアクセスを防止
- 避難所としての機能を生かすため、災害発生時にはフリーで開放
- 2学期から、全小中学校で1人1台タブレットを活用したICT授業を一齐にスタート
- 学習内容や個々の習熟度に応じた授業の創出と高い学習効果の実現
- ICT支援員によるサポート体制を強化し、教職員が児童生徒に向き合う時間を創出

小中学校Wi-Fi整備

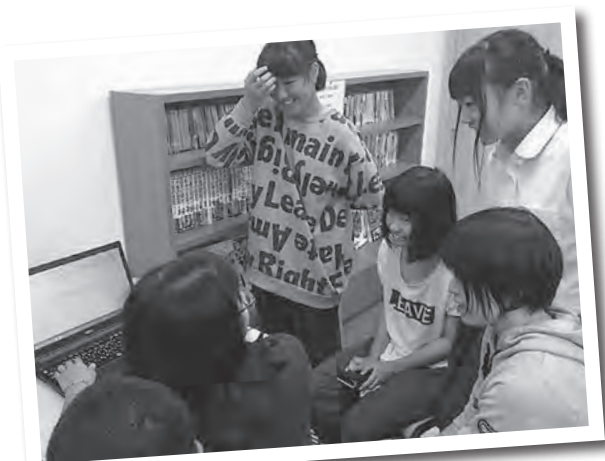
ICT教育の推進

「川根留学生」のための 「サポートファミリー(親代わり)」と「下宿先」を募集しています

川根高校では、現在3学年あわせて48人の生徒が「川根留学生」(親元を離れて通学する生徒)として、勉強や部活動に励んでいます。このうち、男子33人・女子11人の生徒が、寄宿舎(「奥流」「南麓寮」および一般世帯での「下宿」など)で生活しています。

しかし、今後実施予定の全国募集に伴い、来年度以降は寄宿舎が不足することが心配されています。また町や川根高校では、川根留學生にもっと町の魅力を知ってもらい、さまざまな体験を通じて町を好きになってもらいたいとも考えています。

そこで、川根留學生たちにとってこの地域での「親代わり」となる「サポートファミリー」と、生活の場としての「下宿先」を引き受けていただける町民の方を募集しています。



◆「サポートファミリー」(今年の夏ごろから開始予定)

ご都合の良い時に生徒たちを家に招いて泊まってもらったり、地域のお祭りや四季折々の自然体験などを一緒に楽しんだり、生徒たちとの交流を図り、親睦を深め、良き相談相手になっていただくものです。町では、「サポートファミリー」の皆さまに対してできる限りのご支援をさせていただきますが、金銭的な助成はありません。ご理解の上、ご応募いただきたいと思います。

◆「下宿」(早ければ来年4月以降から開始)

年間を通じてのお世話(原則として、個室での宿泊・毎日の朝夕食の提供)をお願いするものです。下宿先の皆さまには、下宿代が支払われます。

「サポートファミリー」と「下宿」に興味・関心のある方や、詳細をお聞きになりたい方は、お気軽にお問い合わせ下さい。



▲若者交流センター「奥流」



▲南麓寮